

作成日：令和7年5月15日

令和7年度 第1回 高松圏域自立支援協議会 就労支援部会議事録

日付	令和7年5月14日（水）
時間	13時30分～15時
開催会場	かがわ総合リハビリテーションセンター 第1研修室
参加機関等	Do やまびこ、ウィズ楠上、ピーノ、ゆうちゃん弁当、オリビオ、香川東部支援学校、かがわ総合リハビリテーションセンター、ウェルビー、ヒトトコ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点、障害者就業・生活支援センター共生、障害者就業・生活支援センターオリーブ 順不同 計45名

議題1：各機関自己紹介

議事	・参加者全員が自己紹介
----	-------------

議題2：就労支援部会の趣旨・目的説明（ヒトトコ）

議事	・資料に沿って高松圏域自立支援協議会の目的、就労支援部会の目的、組織の説明。 ・高松圏域自立支援協議会の組織について、資料では11部会となっているが、実際は13部会、1ワーキンググループで構成されていることを訂正。
----	--

議題3：運営委員会の紹介（ヒトトコ）

議事	・令和7年度体制 部会長：ヒトトコ 副部会長：オリーブ 運営事務局：ヒトトコ、ウェルビー、Do やまびこ、くすがみ、ピーノ、共生、基幹相談支援センター、オリーブ
----	--

議題4：グループに分かれて情報共有／協議内容の共有

議事

□就労支援部会の目的を中心に3グループに分かれてグループワーク。

(①A型 ②移行・就労支援 ③行政・教育・相談支援)

□情報共有

①グループ

- ・企業への障害者雇用の啓発について、行政機関と一体となって働きかける、企業に利用者の作業能力を見てもらう機会を作る取り組みが必要。
- ・A型事業所の運営が厳しくなっているため、運営方法や制度等の勉強会を開催してはどうか。また、利用者確保のために、特別支援学校の実習生、関係機関からの紹介を積極的に受け入れていく。
- ・東讃地域での就労先が少ない。
- ・継続的な通所が難しい利用者に対しては、電話等で粘り強く通所を促していく対応を取っている。

②グループ

- ・相談者の障害特性、作業能力と企業の求める業務水準に開きがある場合に、支援機関で連携してマッチング調整が必要。
- ・障害福祉サービス受給者証の交付に時間を要するため、待機中に体調を崩す、利用の意思が揺らぐ等で、サービスに繋がらないケースがある。受給者証交付までのプロセスの見直しがあってもいいのではないか。
- ・離職を防ぐために、本人の困りごとや不安感を捉えるネットワーク作り、職場環境の調整が重要。
- ・高次脳機能障害、難病等の困難ケースへの対応が多くなっている。
- ・相談者のニーズ、地域課題に則した企業開拓が必要。

③グループ

- ・相談支援：交通の便の悪さによりA型事業所に通所できないケースがある。
- ・教育機関：卒業後に就労面、生活面で様々な問題が出てくるため、学校だけではカバーしきれないことがある。
- ・就労選択支援への動きについて情報交換。

議題 5 : 各機関からの連絡事項

議事

- ・ピーノ
坂出の菓子工場での検品や梱包作業、物流倉庫でのピッキング作業を行っている。
- ・オリビオ
デザイナーとコラボレーションし、T シャツやグッズの製作、販売を開始。
- ・リハセン
かがわ障害者 ICT サポートセンター紹介。
- ・アルプス
発達障害研修の募集案内。
- ・Do やまびこ
6月14日のイベント案内。